



MAINICHI



新毎日

夕刊

3月28日 (水)

2018年(平成30年)

発行所：東京都千代田区一ツ橋1-1-1

〒100-8051 電話(03)3212-0321

毎日新聞東京本社

韓国5作家の単色画 旧作・新作並べ展示

東京・銀座

廊が日本に初めて動向を紹介した時と同じ5人の画家が参加。当時の作品と新作が並び、作風の変化も楽しめる。

世界的な注目を集める単色画のグループ展「韓国・五人の作家 五つのヒンセク△白▽」が、東京・銀座の東京画廊＋B T A P (03・3571・1808)で開催中だ。1975年、同画

単色画はモノクロームが基調の抽象画で、主題の反復や素材の紙・墨を生かす特徴がある。70年代ごろに始まったが近年、「単色画」と総称され、国際的に認知が広がった。同画廊の田畑幸人氏は「日本の『具体』『もの派』に続くアジアの重要な美術動向として欧米で関心が高まっている」と話す。



1967年の作品（左）と新作の間に立つ朴栖甫氏

朴栖甫氏(31年生まれ)は白地に鉛筆で線描した67年の作品と、韓紙をストライプ状に形作り浮かび上がらせた新作を出品。いずれもそぎ落とされた造形の中で、静かなリズムを刻む「線」が忘れがたい印象を残す。4月28日まで、日・月曜休み。

【永田晶子、写真も】